

1 研究テーマ

「学びを生かし、明日の生活を創り出す技術・家庭科教育」
～生活での気づき・発見が、喜びに変わる「分かる・できる」授業づくりを目指して

2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
期日	人数	場所	期日	人数	場所	期日	人数	場所・授業者	期日	人数	場所・授業者
5/31	8人	甲佐中	9/9	8人	嘉島東小 (小中合同)	11/28	6人	蘇陽中・ 上野博芳 教諭	2/9	7人	嘉島中・ 佐伯美早 教諭

3 研究の概要

(1) 研究の内容

① 授業力向上を目的とした研究授業の実施

本会では、全員が免許外指導者という状況であり、各学校における指導の充実を図るためには何が必要だろうかということを考え、まず各担当者が疑問に思っていることや困っていることを事前に調査した。また、今年度は地震の影響もあり、子どもたちに授業を通して家庭分野の授業の重要性を感じさせたいと考えた。また、生活に生かせる力を養うために指導者の授業力の向上が一番重要であると考え、2回の研究授業を行うこととした。

ア 第1回研究授業（11月28日（月） 場所：蘇陽中学校）

内容B「食生活と自立」における「分かる・できる」授業の提案

授業者：蘇陽中学校 上野 博芳教諭



写真1 GTによる具の作り方の説明



写真2 焼き上がりの歓声

(ア) 自評及び意見・感想

- 校内研修で地域人材の活用をテーマに取り組んでいる。そのため生徒の保護者にGTを依頼し授業を行った。本場中国の方の指導ということで子ども達の興味関心はとても高かったように思う。（写真1、写真2）ただ、GTとの事前の打ち合わせの時間が不足してしまい、授業を効率よく進められなかった点が課題点である。
- 食育に力点をおいて授業づくりを行った。「地産地消と国際交流」の2点から子ども達に様々な視点を与えられたことが良かったと思う。
- 本場中国のレシピを学べるということで子ども達の意欲はとても高く感じた。事前の打ち合わせをもっと綿密に行い、中国独自の味付けなどをもっとクローズアップすると更により授業になった。授業後の子ども達からGTへの返しの時間を大切にしてほしい。
- 調理の時間が不足したのが残念だった。今回の授業では、皮は既製品を用いて、具だけを調理させることでも良かったと思う。
- エコクッキングの視点を取り入れて、水を大切にする調理実習を行っている学校もある。特に今年度は震災もあったため、これからはそういったテーマで調理実習をすることも必要である。

イ 第2回研究授業（2月9日（木） 場所：嘉島中学校）

内容C「衣生活・住生活と自立」における「分かる・できる」授業の提案

授業者：嘉島中学校 佐伯 美早教諭

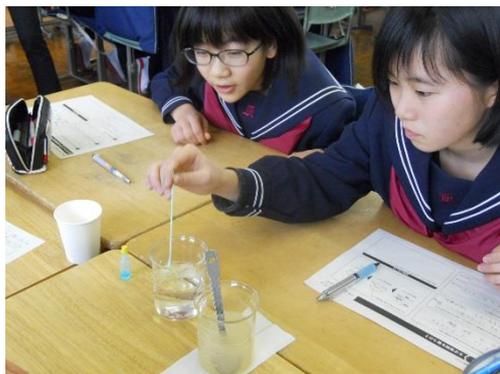


写真3 界面活性剤の働きを知る実験



写真4 界面活性剤の働きの確認

(7) 自評及び意見・感想（佐伯教諭）

- 洗剤メーカーから提供されている既存の教材・教具を用いた。必要な資料が全てそろっているのもとても便利だった。既存教材・教具を用いることのメリット・デメリットについて意見を聞きたい。
- 郡のテーマでもある「分かる・できる」授業を目指した。実験を通して子ども達に主体的に活動させ、授業のめあてに到達させたいと考えた。（写真3）
- 既存の教材・教具は準備の負担が少なく、他教科も教えている私たちにとってはとても便利なものである。しかし、界面活性剤のデメリットがあるが、それに触れられていなかったのも、事後指導でプラスとマイナス面の両面を伝える必要がある。（写真4）
- 教材・教具自体はとても良かったと思う。授業のねらいや学習指導要領から逸脱しないように提示の内容や順序を整理し、修正することも必要である。こういった教材をみんなで共有できるとよい。とても有意義な研究会であった。
- 教材・教具の準備には動画投稿サイトを活用するのもとても有効である。提示方法は慎重に行わなくてはならないが、実技指導などで活用できる動画がたくさん公開されているのでよく活用している。
- 調理実習では、食材の購入にとても気を遣う。ある学校では、食材の購入・配達までを栄養教諭が手配してくれて助かっている。栄養教諭と協力、相談をしながら調理実習を進めることも大事である。

② 小学校家庭科部会との合同授業研究会

小学校での実践を学び、中学校における授業実践の充実につなげるために、隔年でお互いに研究授業を行い、研修を深めている。

授業者：嘉島東小学校 西田 丈輝教諭

(2) 成果と課題（○：成果 ●：課題）

① 授業力向上を目的とした研究授業の実施

- 2回の授業研究会を通してお互いの実践を深めることができた。また、先生方が授業を行う上での悩みや工夫点についても互いに情報を交換することができ、大変有意義であった。
- 地域におられるG Tの活用がとても勉強になった。更に中国料理の調理実習でG Tが中国の方であったので、子ども達の興味関心はとても高いものがあつた。
- 既存の教材・教具の活用は私たちのような免許外で授業を行うものにとってはとても便利であり、今後もそういった教材・教具を共有し合うことで更に授業力が向上すると思われる。
- 既存の教材・教具は、使い方を誤ると偏った情報や見方を与えがちな点がデメリットであることがわかった。授業のねらいをしっかりと押さえて情報を取捨選択して子ども達に提示することが重要である。

② 小学校家庭科部会との合同授業研究会

- 同じような学習内容でも、小学校と中学校で課題の提示の仕方や学習指導要領での目標が違うことに着目して授業研究会を進めることができた。特に、小学生と中学生の発達段階の違いに

合わせて、教材の提示方法を変えることが重要であることがわかった。共通して言えることは、視覚的な情報を与えることは重要でも、与えすぎると子ども達の考える機会を奪うことになることがわかった。

○洗濯をする必要性についてしっかりと子ども達にとらえさせることはできていた。しかし、必要性を理解させるために行った実験が自分たちの生活と離れていた。子ども達の生活と近く、イメージしやすい実験を行うことで更に学習を深めることができることがわかった。

4 実践事例

(1) 学習指導案（蘇陽中 上野教諭）

第1学年1組 技術家庭科（家庭分野）学習指導案

日時 平成28年11月28日（月）第5校時

場所 蘇陽中 家庭科室 指導者 教諭 上野博芳

1 単元名 B「食生活と自立」（肉、野菜の調理）

2 本時の学習

(1) 本時の目標 ①肉の調理上の性質を理解して、肉料理を作ることができる。

②材料の適切な取扱ができ、協力して安全や衛生、環境に配慮した調理実習ができる。

(2) 本時の展開

過程	能・徹	学習内容・予想される生徒の反応	形態	教師の支援・評価	備考
つかむ導入 [5]分	徹 能 徹	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">めあて 豚肉を使って、餃子を作ろう。</div> <p>1 学習の目標を確認し、各班の目標も確認する。 2 調理の手順と作業の分担を確認し、衛生的に安全な作業をすることを確認する。</p>	一斉 個 一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあてを再確認する。 ・各自の役割を確認し、安全と衛生、環境に気を配り、協力して実習するよう促す。 	ノート
ふかめる展開 [40]分	徹 能	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">課題 適切な分量を包み、十分に加熱して焼き餃子を作ろう。</div> <p>3 皮を作る。 大きさ、厚さを考えながら作る。 4 具を包む。 5 フライパンで焼く。 6 盛りつけて、試食する。 7 片づける。</p>	一斉 班 個 班 一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を確認させる。 ・一枚分の皮の大きさを提示する。 ・皮がくっつかないようにさせる。 ・お互いに観察しあい、違っているときは助言するように促す。 ・適量の具を、皮で包ませる。 ・具が残らないように全部包む ・火加減を注意して見させる。 ・コンロを安全に使わせる。 ・焼かない人は、道具の後かたづけをさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">「生活の技能」 安全と衛生に留意し、食品や調理用具などの適切な管理ができる。</div>	提示カード まな板のぼし棒 大皿 フライパン コンロ 皿、箸
まとめ [5]分	徹	8 実習が計画通りにできたか班で話し合う。	個	<ul style="list-style-type: none"> ・実習を振り返らせながら、できたこと難しかったこと等を計画表にまとめさせる。 	ノート

(2) 学習指導案（嘉島中 佐伯教諭）

第2学年3組 技術家庭科（家庭分野）学習指導案

日時 平成29年2月9日（木）第5校時

場所 嘉島中 2年3組教室 指導者 教諭 佐伯美早

1 単元名 C「衣生活・住生活と自立」（衣類の洗濯）

2 本時の学習

(1)本時の目標

○洗剤が汚れを落とすしくみについて理解する。

(2)本時の展開

時間	学習内容	教師の支援	備考
導入 3	1 本時の目標を知る ・本時のめあてを確認する。	・洗剤が汚れを落とす仕組みについて学ぶことを知らせる。	スライド
展開 40	2 衣服の汚れについて考える。 3 洗剤が油性の汚れを落とす仕組みについて理解する。 ・実験する	・衣服の汚れにはどのようなものがあるか考えさせる。 ・汚れをそのままにしておくとなぜ良くないのかを理解させる。 ・界面活性剤の働きを確認させる。 ・界面活性剤の分散、浸透作用について確認させる。 ・界面活性剤の再付着防止作用について確認する。 ・界面活性剤が汚れを落とす仕組みについて、ワークシートに記入させる。	プラスチックカップ ラー油 金属スプーン 洗剤 毛糸
まとめ 7	4 本時の振り返りとまとめ	・本時の分かったことを自分の言葉でまとめ、ワークシートに記入させる。	ワークシート

～実験①～

- ・水の入ったプラスチックカップに、ラー油がついたスプーンをいれ、ラー油をめぐらして洗剤を1～2滴たらす。
- ・ラー油が浮かび上がる様子を観察する。

～実験②～

- ・水の入ったプラスチックカップと、水と洗剤が混ざったプラスチックカップの2種類を準備する。
- ・毛糸を入れて、洗剤が入っている水になじみ沈んでいく様子を観察する。